

『竜の医師団 1』(創元推理文庫)



庵野 ゆき // 著 岩本 ゼロゴ // カバーイラスト
岡本 歌織(next door design) // カバーデザイン
東京創元社

出自のため学ぶことすら禁じられた少年リョウと、家を捨てた貴族のレオナード。真逆な2人が目指すのは、巨大な竜を治療する「竜ノ医師団」。無事入団するも、リョウは初等学舎からの学び直し。一方のレオナードは、成績優秀だが血を見るのが苦手な前途多難。リョウの「熱を診る」能力を武器に、レオナードと共に竜の命に挑む異世界医療ファンタジー。



『高校に行かないと決めた14歳の日から』

七井 マリ // 著
文芸社

「当たり前」とされる価値観に違和感を抱き、周囲との軋轢に悩む著者は、14歳で大きな決断をします。それは高校に進学せず、大検合格を目標に独学で勉強を続けること。周囲の反対を受けながらも、強い気持ちで自分の信じる道を進む姿から勇気がもらえます。

一般論にとらわれず、自分らしい生き方を考えるきっかけをくれる自伝的エッセイです。



『僕たちは我慢している』

藤岡 陽子 // 著
COMPASS



現代の高校生のリアルな受験事情を描いた群像劇です。

倒れた父のために奔走する道人、家族からの期待に応えようと親友を裏切ってしまった英信、自分のやりたいことが見つからず自己嫌悪に陥る揮一。

葛藤を抱きながらも、受験と向き合う3人の姿に、つい自分を重ねてしまいます。勉強を頑張っている人に寄り添う一冊です。

図書館おすすめブックリスト

2026年8月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで  フル充電!!

No.34 中高生向け



『ぼくがぼくであるために』

蒼沼 洋人 // 作
ポプラ社



中学校に入り、アキは好きだったバレエをやめて野球を始めた。“女みたい”な顔や体型をからかわれることにうんざりし、「男らしい男」になりたかったのだ。恋愛や容姿の問題にぶつかりながら、なりたい自分を目指すアキだが…。

誰もが完璧な人間ではなく、他者からの評価を気にしてしまう自分の弱さや葛藤を抱えて「自分らしさ」を探しているのだと気づかされる。

『真昼にも星が光ると知ったのは』

梨屋 アリエ // 作
ポプラ社



中学2年生の夏鈴は、電車で席を譲られた白杖の男がスマホを操作する姿を見て、目が見えるのでは？と疑いを持つ。彼に声をかけたことをきっかけに、手話サークルを知った夏鈴は、様々な障がい者と出会い、自分らしく人生を楽しむ方法を知っていく。

空気を読めずに人の輪を壊しがちだった夏鈴が、自身の特性を受け容れ、世界を広げていくところが素直に描かれている。



『ツバメの親子はどこにいる』

檜崎 茜 // 作
くもん出版

物語は明照の弟、音晴が入学する年から始まる。音晴は母が白杖をつく姿をクラスメイトにからかわれ、ケンカをしてしまう。犬を散歩させていたおじさんに助けられ、それをきっかけに友達になっていく。

障がいに対する偏見や差別など、多くの経験をして大人になる兄弟の話と、父の幼い頃の話が重なっていく。昭和から平成、令和へと紡がれる三世代の物語。



『わたしのbe 書きたび、生まれる』

佐藤 いつ子 // 著
KADOKAWA



地味な外見を変えて高校デビューを夢見つつも、ぱつとせず落ち込む文香。書道部に入部してきた端正な容姿の佑京にあこがれるも、華やかな蘭の登場で、もやもやがつのるばかり。けれど、佑京がひたむきに書に向き合う姿に魅せられ、いつしか自分も夢中になっていく。

書きたび生まれる新しい線が、各々が持つ「美」に気付かせてくれる、「書道×青春」ストーリーです。

『大学4年間で「応援」に捧げた私が古生物学者になった話』

泉 賢太郎 // 著
理論社



幼い頃から“なんとなく”古生物が好きだった著者は、大学4年間で応援部中心に過ごし、卒論の時期を迎える。そこで同級生と学問面で大きな差があることに気付くが、古生物学者になる決意を固める。部活で培った「ガムシャラさ」を強みに、まだ研究されていないテーマを探し、論文をたくさん書くことで挽回を図る。何かに挑戦するすべての人へのエールが詰まった一冊。



『ギアをあげて、風を鳴らして』

平石 さなぎ // 著
集英社

小学4年生のクミは、ある宗教で教祖の生まれ変わりとして崇められている癒知と出会う。転校を繰り返し、精神的に不安定な母をもつクミと、母に触れたことのない癒知。2人は休み時間や放課後と一緒に過ごすうちに仲を深めていき、母親同士も交流するようになって…。

それぞれいびつな状況にいる少女が出会い、互いの人生を変えていく様がエネルギーに描かれている。



『マッドのイカれた青春』

実石 沙枝子 // 著
祥伝社



圧倒的な美貌を持つ女子高生マッド。彼女の高校3年間で、同級生の視点を組み合わせることで浮かび上がります。周囲からの嫉妬や偏見、SNSでの誹謗中傷に苦しみながらも、自分らしさを失わず生きようとする姿はとても魅力的です。

容姿だけで判断するルッキズムや他者とのすれ違い、現代社会が抱える問題に向き合う葛藤を、ユーモアや鋭い視線を交えて描く青春小説です。